平成25年度　Ｂブロック勉強会　アクションプラン

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成26年2月13日（木）

◆テーマ（お薬手帳・疑義照会・残薬確認・ジェネリック・一般用医薬品）

残薬確認  
◆個人で考えた問題の定義（なにが問題の本質か）

　　残薬は患者さんを責めている感じに取られる。処方の複数HPでの重複。

処方日数の曖昧さ。　　が問題

◆班で考えた問題の定義（なにが問題の本質か）

　ご本人、Drが把握できてない残薬　　　が問題

◆アクションプラン

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| |  |  | | --- | --- | | 5班 | 目標：残薬発生抑制の為の服薬指導と相談を含むｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ。 |   　　目標にいたる具体的な解決策   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | いつ  （実施時期） | いまでしょ | 誰が  （実施主体） | 薬剤師 | | 誰に  （働きかけ先） | 患者さんに働きかけると自然にDrにも伝わる | | | | どのように  （方法） | 投薬時に患者さんの話に共感し、問題や困っていることがあればアドバイスをする  （例：朝は服用する時間がない→昼食後に服用ご本人、Drに提案）  「あなたのご自宅に飲まないお薬はありませんか？処分に困っているお薬はありませんか？そういったお薬があれば●●薬局までご持参ください」的ポスター、チラシを作成する。 | | | | 備考 |  | | | |

◆振り返り

|  |
| --- |
| （班長）  班の雰囲気は温度差あり。話をまんべんなく振るが発言のむらは出てしまいルールは内容によっては守られていなかった。総じて皆さんコミットはできている。何度もディスカッションを同じメンバーで経験があるので温度差は承知の上・・・という感じをうけた。  コーチ役としてはもっとまんべんなく意見を抽出し自然なメンバー内での意見交換ができる状態に持っていかないといけない。  （会員分のまとめ）  残薬確認は副作用、重複投与を防ぐだけでなく、患者とのコミュニケーションやDrとの連携をとる上でも必要不可欠。  今後、積極的に患者さんと接しじっくりお話を聞き、Drにも疑問があればすぐにお伝えできるような環境づくり、そして待合室やカウンターに残薬に関して意識付できるポスター、  またはチラシ等を作成してきたい。 |